

令和3年度 日本精神科医学会学術教育研修会 報告

看護部門

駒橋 徹

令和4年1月27日、日本精神科医学会学術教育研修会看護部門が栃木県支部の担当により宇都宮ホテルニューイタヤを発信会場としてweb開催された。全都道府県から計460名の参加の申し込みがあった。

開会式の後、「精神科医療の将来展望」という演題で会長の山崎學先生の講演が行われた。まず明治時代から現在までの精神福祉行政の歩みを説明された。次いで最近の精神保健福祉の動向について触れ、精神疾患を有する総患者数は400万人を超える一方、多くの病院で入院患者数が減っていると述べられた。精神科医療における社会的偏見では、日本は諸外国に比べて精神病床が多いといわれるがカウントの仕方が違うこと、医療観察法は治療がうまくいかない重症者が除外されていることなどを教えて下さった（日精協雑誌 Vol.41 No.1 2022 p74 - 81 参照）。

講演Iとして「認知症と行動制限」という演題で東京都立松沢病院看護部認知症病棟副看護師長堀口法子先生の講演が行われた。身体拘束の最小化に取り組んだところ年々身体拘束率が下がり、開始から3年程度で転倒による損傷発生率上昇は止まったと述べられた。開始前には「無理だ」「理想論だ」との意見が多かったものの、毎日のカンファレンスでケアや環境の工夫をし成功体験を積み重ねることでやりがいや芽生え、「転倒予防のための身体拘束はしない」ことが当たり前になったそうである。

講演IIでは、まず「病院における事業継承計画(BCP)作成について」という演題で東京海上日動火災保険(株)医療・福祉法人部課長の瓜生護



先生が講演された。BCPは、原因事象別ではなくリソースの被災(結果事象)に着目して対策を策定し、ガイドラインを参考にして基本方針の策定、優先業務の選定、ボトルネックリソースの特定、対策の検討、文書作成の順に進めるとよいと話された。次いで「実際の災害からみえる、病院BCPに必要なポイント」という演題で医療社団法人医鳳会医療危機管理部部長の秋富慎司先生が講演された。阪神大震災や東日本大震災について写真を交えて被災状況を提示された。BCPだけでなくBCMS(組織の事業継続能力を継続的に維持・改善するための経営手法)を導入するとうまく運用できると教えて下さった。

その後、『災害と向き合う精神科看護～経験と日常の備え～』というシンポジウムが企画された。

まず、DPAT事務局次長の獨協医科大学埼玉医療センター救急医療科講師の五明沙也香先生が「災害におけるDPAT活動」という演題で講演された。DPATは被災都道府県の災害対策本部からの要請によりDMAT等と協力をしながら活動すること、発災から1週間程度は災害医療体制の立ち上げとDMATとの連携、1週間程度から1ヵ月程度までは医療救護班や保健所等との連携、1ヵ月以降は地域精神医療保健体制へのつながりを中心となると教えて下さった。

次いで、社会医療法人ましき会益城病院看護部部長の金子元子先生が、「施設で甚大な被害 そ

の時看護は～災害の経験から見えてきたもの～」という演題で、平成28年4月14日21時26分から始まった熊本地震での経験を話された。初動では大規模災害を想定した避難訓練や力の貸し借りが円滑にできる職場風土、駆けつけた仲間や上司の声掛けが有用で、復旧過程では素早く情報共有するための手段を確保し、具体的な回復過程が見えるようにして一人ひとりのモチベーションを皆で支えることが重要であったと結ばれた。

それから、医療法人緑風会ほうゆう病院看護部部長の江口末道先生は、「豪雨災害の経験からBCP作成の一步を踏み出すために」という演題で、平成30年7月5日～7月7日にかけての豪雨災害の経験について話された。道路の寸断が激しく通勤が困難なため、職員の通勤時間と通勤手段により出勤できる職員を選別する必要があった。被災終了後には食料や飲料水の備蓄量を増やした上でいくつかの医療機関と連携して緊急時の食事提供システムを確立したそうである。電話以外の安

否確認方法も必要と締めくくられた。

最後は、特定医療法人清和会鹿沼病院看護部部長の荒井優子先生が「新型コロナウイルス感染症のクラスター経験を通して」という演題で、令和2年12月28日～令和3年3月5日にかけて、患者様103名、職員40名、計143名の新型コロナウイルス感染症クラスター発生の経験を話された。ライフライン等の損傷はないため人員確保が最大の問題で、指揮命令系統の確立、決定事項の明文化と伝達、記録保存に苦労したとのことであった。職員のメンタルヘルスに配慮することが今後の課題と結ばれた。

まとめとして座長の前沢孝通先生（医療法人孝栄会前沢病院院長）、前述の秋富慎司先生、シンポジストでディスカッションが行われ、閉会となった。

（日本精神科医学会
学術教育推進制度学術研修分科会）